

垂水

史談会報

第 71 号

2025 (令和 7) 年

10 月発行

【報告】

今年の「戦争のあったころの

ことを知ろう展」

垂水史談会では、毎年8月に、「戦争のあったころのことを知ろう展」を開催しています。戦後80年をむかえるこの夏、鹿児島県内各地で「戦争展」が開催されました。市町村主催で行われた「戦争展」に比べると、垂水市の展示会は、ささやかなものでありますが、「戦争体験を継承していこう」と長年取り組みを継続してきたことは、とても大切なことですし、胸を張れることだと思います。小規模でも来年以降も続けていきたいと考えています。展示を見てくださったみなさん、ありがとうございました。



(古場 昌彦)

へ 見に来てくださった方たちの感想より

- ・戦争のあったころの服とかがあって、とても見やすかったし、わかりやすかった。(小学生)
- ・私は長崎出身で平和教育を小さいころからうけてきたが、このように手で本当の物をさわってみるのは、初めてでおどろきました。(30代)
- ・とても充実した展示で、大変勉強になりました。垂水という土地での出来事について、引き続き知る機会があると嬉しいです。(40代)
- ・生々しい資料の展示で、垂水での戦災の大きさに改めて驚いた。(50代)
- ・野崎さんの絵と文が、戦争中の生活をわかりやすく説明していて良いと思いました。よく覚えていたなあとびっくりしました。(50代)
- ・世界で戦争が起きている。戦争の悲惨さを知ることと「なぜ戦争を始めたのか。それを国民はなぜとめなかったのか。」ももっともって勉強しなくては！(70代)
- ・父が台湾から中国本土へ召集され、小さい頃、戦争の悲惨なことをよく話してくれました。戦後80年たっても、まだ世界では争いがあります。一人一人が相手のことを思いやる豊かな日常を送れるような平和な世界になつてほしいと思います。(70代)

今年の「ぶっあがい」

8月27日の夕方、終原や水之上、中俣、海潟地区で「ぶっあがい」が行われました。「ぶっあがい」の名前の由来はいろいろな説がありますが、亡くなった人々の魂を慰霊する風習です。お盆に帰って来た人々の霊魂があの世に帰り着くのが8月22日(海潟では「そろもろちか」と言われています)、そして27日の夕

方に海岸や川のほとりで、有縁の人びとによって霊魂供養を執り行われるのが「ぶっあがい」です。その年の初盆を迎える霊魂を供養する外に、終原では水難事故で亡くなった方や、先祖供養まで合わせて行われています。今年海潟では二組の家族が飛岡川の下流の海岸でそれぞれ砂で50㍍60センチの舟をかたどり、その上に線香を挿して供養されていました。うち一家族では亡くなった方が特攻の生存者でしたからでしょうか、砂で飛行機



も造ってありました。中俣では荒崎パーキングの下の海岸。水之上の本城川に架かる牧橋の上では、川原の砂を四角い木枠で2㍍3段のピラミッド状に積み上げた形にして線香が挿してあり、その近くに提灯が吊り下げてあったことも特徴です。

「ぶっあがい」の形は地区で少しずつ変わっていますが、いずれも亡くなった方々の供養という思いに変わりはありません。亡くなった人々を思いながら次第に夕暮れが深まり、辺りにしみじみとした時間が流れます。

※「広報たるみず」10月号の「たるみず歴史・文化散歩」にも中谷潤心さんが書いた「ぶっあがい」が掲載されていましたね。

(瀬角 龍平)

垂水中央中史跡巡り

垂水中央中では、毎年3年生が垂水市内の史跡巡りを行っています。今年は、9月26日に実施。史談会会員の瀬角、山田、川崎と古場の4名でガイドを務めました。知っているようで知らない地元の史跡や文化にふれることは、子どもたちの知識を高めるだけでなく、内面を耕して豊かな人間性を養うことにつながると思います。しっかりメモをとり、説明の後、質問に来るなど熱心な生徒さんもいて感心しました。

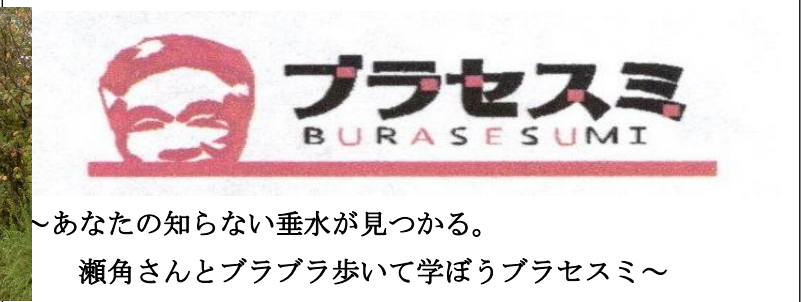


今年の見学地は、①お長屋、②有馬邸、③垂水島津家墓所、④宇喜多秀家蟄居跡、⑤居世神社 ⑥埋没鳥居⑦公卿石(くげいし)、⑧桜島焼亡塔、⑨白崩れ(したくえ)・見晴亭、⑩海軍垂水航空隊跡(道の駅たるみずはまびら)の10カ所でした。子どもたちがふるさと垂水を知るために、今後も続けていきたい行事です。(古場 昌彦)

○約15年間住んでいるこの垂水市には、私の知らない建物や歴史がたくさんありました。私は、桜島の埋まった鳥居を見たことがあります。ですが、牛根の鳥居は初めて見ました。埋まっていただけでなく、噴火のゆれで丈夫な鳥居が大きくずれているのに驚きました。私は、歴史が苦手です。ですが、この体験を通して、「なんでこうなったのだろう。」という疑問と共に歴史に興味が生まれました。

○「垂水は何もない」というイメージしかなかった私の思いも、がらっと変わり、「垂水にもすごくたくさんさんの歴史や人々の思いが残っているんだ。」と思いました。わずかな時間でしたが、垂水の良い所をたくさん教えてくださりありがとうございました。私は、この活動をふまえて、垂水の良い所をいろんな人たちに広めていきたいです。

まち歩き講座 第4回



～あなたの知らない垂水が見つかる。
瀬角さんとブラブラ歩いて学ぼうブラセスミ～



そうです。五夫さんは16年前に亡くなられて、苗木が大きく育ち、満開の花を咲かせるところを目にすることはなかったそうですが、今は春になると美しく咲いた桜が、見る人を楽しませてくれるそうです。亡き五夫さんの奥様の麻美子さんからお話を聞かせていただき、春の到来が楽しみになるとともに、守っていきたい風景だと思いました。次回のブラセスミも楽しみですね。(古場昌彦)

研究ノート 蝶の話

第3回 小さな絶滅危惧種 その① タイワンツバメシジミ

この蝶は限られた地域で年一回、九月上旬から十月中旬にかけて成虫になって発生。大きさは翅を閉じると一センチ前後の愛らしい蝶です。産卵後は幼虫で越冬して次の年の秋までその姿は観られません。食草は主にシバハギというマメ科の植物です。でもシバハギが群落自生していても必ず生息しているとは限りません。

この大隅半島においても生息する環境に合ったごく限られた場所だけに生息しています。

「春や夏にも野原で観たことがあるぞ。」と思われるいる方、よく似てはいますがそれはおそらく普通に観られるツバメシジミです。

土地の開発や環境の変化で生息地が追いやられ環境省のレッドリストに掲載された絶滅危惧種です。自治体によっては規制をかけて保護しているところも出てきました。

(市来 恒男)



オス



メス



翅の裏面



食草シバハギに産卵

次回のまち歩き講座

第五回 十月二十六日(日) 午前9時垂水南漁港集合
※切目王子神社のほか、柗原集落内などをブラブラします。
午前十一時から十一時半ごろ終了予定。
★天候によっては、柗原公民館で座学になります。悪しからず。
★史談会会員は、いつでも参加できます。(会員特典です。)

「垂水の史跡・文化財」展②

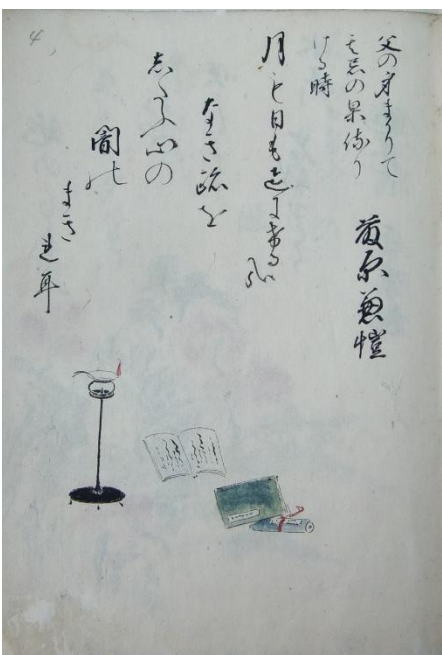
十一月一日(土)～三十日(日) 垂水市立図書館にて
★今回は、垂水島津家墓所発掘報告、垂水の俳人などの展示を行う予定です。ぜひおいでください。

祝 七月提出の「たるみず博物館(仮称)の設立について」の陳情書が、九月議会にて無事採択されました。

垂城三十六歌撰 その4

父の身まかりて
其忌の果侍り
ける時
藤原兼愷 (翻刻・瀬角龍平)

月も日も過にける哉
なき跡を
したふ心の
闇の
まきれに



瀧の白糸 *「白糸」↓「白浪」

落そふ
はるや
咲しより
水上の岩本さくら *「咲しより」↓「ちるまゝに」

瀧花 平季翹



垂水では、はやくからすぐれた歌が数多くよまれてきました。1835年に編纂された「浪の藻屑」には、垂水領主から町人まで165人の名と2000首の歌がしるされています。その中から、特に秀でた36人を選んで「垂城三十六歌撰」と称しました。